

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第35週 (8/30-9/5) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		35週	34週	33週	32週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	17	17	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	27	26
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	8/30-9/5	8/23-8/29	8/16-8/22	8/9-8/15	8/23-8/29
			35週	34週	33週	32週	34週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.12	6 0.35	8 0.47	19 1.12	87 0.67
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5 0.29	3 0.18	3 0.18	6 0.35	22 0.17
	感染性胃腸炎		24 1.41	17 1.00	14 0.82	28 1.65	142 1.10
	水痘		0 0.00	0 0.00	1 0.06	3 0.18	7 0.05
	手足口病		5 0.29	2 0.12	4 0.24	1 0.06	11 0.09
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	2 0.02
	突発性発しん		10 0.59	7 0.41	13 0.76	11 0.65	40 0.31
	ヘルパンギーナ		0 0.00	3 0.18	0 0.00	1 0.06	26 0.20
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	2 0.12	0 0.00	8 0.06
	インフル		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	1 0.20	0 0.00	9 0.27
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(1019件)

※新型コロナウイルス感染症1015件は件数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	50歳代	IGRA検査	梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
結核	女性	70歳代	IGRA検査等	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~90歳代	病原体遺伝子の検出等
梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出	-	-	-	-

・第35週は、結核2件(95)、梅毒1件(29)、新型コロナウイルス感染症1524件(14110)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第35週のコメント

調査対象の全ての感染症について、過去10年の同時期と比べると平均未満又は発生報告がなかった。

■ トピック ■

<突発性発しん>

全国の第34週は0.33で過去10年の同時期と比べると僅かとなっています。都道府県別では福岡県及び宮崎県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県は0.31で全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第35週は0.59で前週より増加しましたが、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。本市では、新型コロナウイルス感染症対策の強化に伴い他の調査対象感染症の報告患者数が例年と比べて著しく少ない中、突発性発しんは例年と比べると少なめながらも一定の報告数が出ています。

突発性発しんとは乳幼児がヒトヘルペスウイルス6、7型の感染による突然の高熱と解熱前後の発しんを特徴とするウイルス感染症で、予後は一般に良好とされています。乳幼児期、特に6か月から18か月までの間に感染することが多く、5歳以上はまれとされています。

千葉市における2016年から2021年第35週までの定点からの報告数は3,038件で、2016年(635件)から2018年(487件)までは減少していましたが、その後2020年(548件)までは増加しており、2021年は第35週現在で312件となっています。各年の第35週時点の報告数は、当該年の報告数のほぼ7割程度で推移しています(図1)。男性51.7%(1,571件)、女性48.3%(1,467件)で、年齢階級別では1歳56.9%(1,729件)、6-11か月24.1%(733件)、2歳13.6%(412件)の順で多くなっています。また、5歳以上は0.4%(11件)で2020年以降は報告が出ていません(図2)。年齢階級別の報告数は、2020年は全体的に2019年より増加しているものの、6-11か月及び1歳では減少傾向となっており、一方で2歳では2020年まで徐々に増加しています(図3)。全体に占める割合は、1歳未満は2016年(29.3%:186件)から2021年第35週(23.4%:73件)まで徐々に減少傾向となっており、一方で1歳はほぼ横ばい(範囲55.1%~58.5%)で、2歳は9.8%(62件:2016年)から16.7%(52件:2020年)へと増加しています(図4)。

千葉市では、6-11か月及び1歳で全体の80%を占めており、1歳未満の罹患が減少する一方で2歳の罹患が徐々に増加しています。

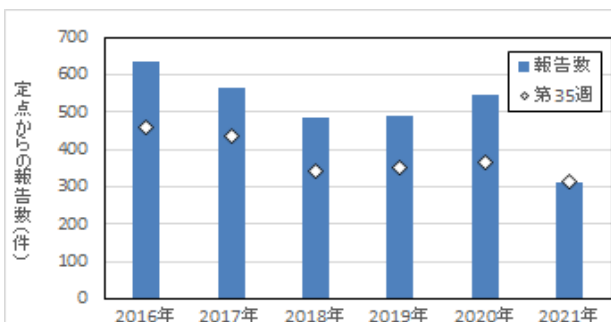


図1 定点からの報告数 年別
(2016年-2021年第35週 n=3,038)

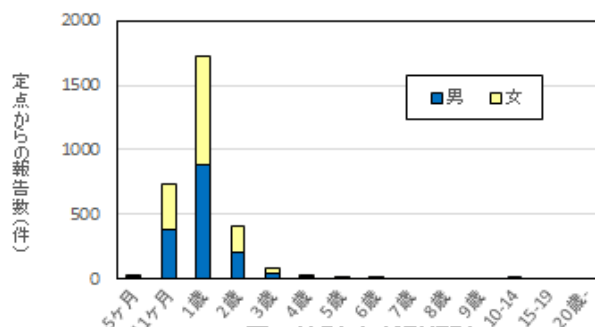


図2 性別・年齢階級別
(2011年-2021年第35週 n=3,038)

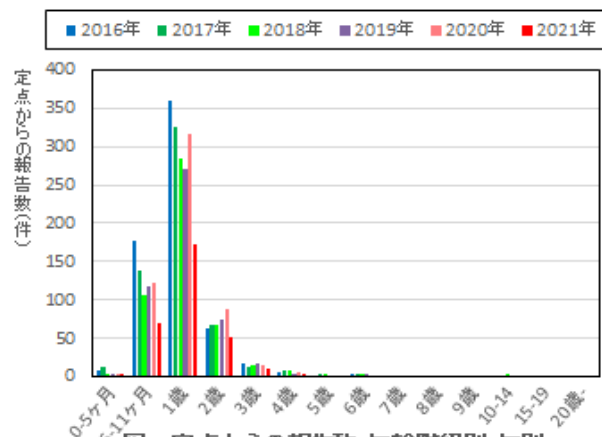


図3 定点からの報告数 年齢階級別・年別
(2016年-2021年第35週 n=3,038)

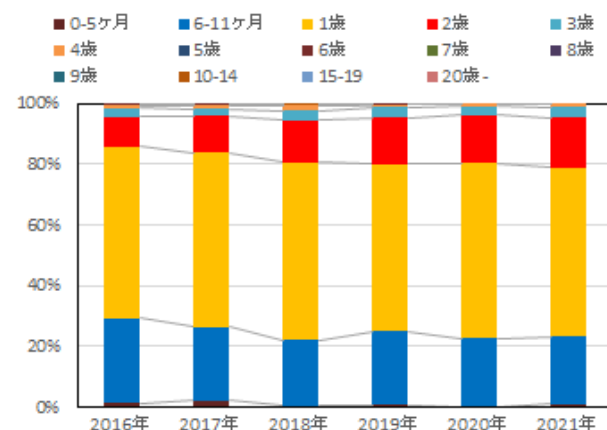


図4 年齢階級別の全体に占める割合
(2011年-2020年第35週)